



「ままごと遊びを育てる」

ひかりの子幼稚園

2021年9月

9月の園庭はピンクや紫の「アサガオ」が次々に大輪の花を咲かせ、目を楽しませてくれています。そのアサガオを「色水遊び」に使うと、どんな花より発色が良いことを知った子どもは「アサガオちょうだい！」とやってきます。保護者の皆様から毎朝届く、花がらとペットボトルのご協力にもとても助けられて、2学期も「色水遊び」は継続しています。

色水遊びを観察していると、「すりばちで擦る」
「ウォータークーラーの水のレバーを持ち上げる」
「ペットボトルを片手に持ちながらウォータークーラー
の蛇口からでてくる水を受け止める」



花がら 擦る 入れる できた！

「じょうごを使ってペットボトルに色水を移し替える」など手首や指先を使った、機能訓練的な遊びに自然となっていることがわかります。最初は上手に擦れなかったすりこぎも手首を器用に回し、力を加減できるようになってきます。大きい子が「こうするんやで」と小さい子におしえていたり、じつとやり方を観察している子もいます。水が少々こぼれても、台が汚れても平気、こぼれた水は地面が吸収してくれます。何度もチャレンジしているうちに手順をちゃんと覚え、お台所でお料理をしているかのような子どもたちの姿が何とも言えず可愛らしく、ほほえましい外遊びのひとつです。

先日宇治のおもちゃ屋「キッズいわきパフさん」の『ままごとあそびを育てる』（岩城敏之代表）の研修で学んだことです。

○子どもたちと一緒に、いろんな場面のままごと遊びをしていると、その子が生活の中でどれだけのことを学習しているか見えてきます。ある日、ままごとコーナーに、アイロンとおもちゃのハンカチをおいてあげたら、上手にアイロンかけごっこを始めた子がいました。丁寧に折りたたみながらアイロンをかける子どもの姿は、本物のアイロンをかけているようです。そしてかけ終わったばかりのハンカチをほっぺにあてて、「ぬくたい、ぬくたい」と言っていました。

きっとこの子は、家で親のアイロン仕事をよく観察したのでしょう。そしてアイロンをかけ終わったばかりのハンカチを持たせてもらった経験があるのでしょう。親と子がともに過ごしたほんのひと時が見えてきます。

○またある日、赤ちゃん人形を使って赤ちゃんを段ボール箱のお風呂に入れる遊びをしていた時です。湯加減を見たり、お湯をかき混ぜたり、うそこの世界でもまるで本当のお湯があるように遊ぶ子どもの姿は真剣そのものです。お風呂から赤ちゃんをあげて服を着せようとした時、赤ちゃん人形の指が服に引っかかってなかなか通せませんでした。それを見たある子が「赤ちゃんの手はね、グーをさせて、それをパーで握って、ゆっくりひっぱってあげるの。そうしないと指がこうなって（指を反らしながら）痛いの」と言いました。私は驚いて「あなたの家には赤ちゃんがいるの？」と聞くと、嬉しそうに「うん 1才」と答えました。きっと同じ場面がその子の家庭にあったのでしょう。

その子が親のしていることを見て「私もしたい」と言って手を出したときに、丁寧に真剣に付き合ってくれる大人がいたのでしょう。子どもに手伝ってもらうことの二度手間を思うと、私たち大人はつい「危ないから、向こうにいてなさい」などと子どもを追い払ってしまいがちです。でも子どもの自発的なかわりのチャンスと受け止め、ほんの数分間、子どもと真剣に、丁寧に付き合っただけでどれだけ子どもが育つでしょう。子どもと一緒にままごと遊びをする中で、いつも子どもに教えられる「時間の共有の仕方」です。さて私たちは今日どれだけ子どもたちとともに時間を共有できたでしょうか。(岩城敏之氏より)

子育て真っ最中のご家庭では少々耳の痛い話です。

何でも「したい、やりたい！」子どもたち。「よし、今日はやらせてあげよう」と思ったら、あの興味はどこへやら、やりっぱなし、出しっぱなし……。どこから片付けていいのやら、「あーあ、やらせるんじゃなかった……。 」と後悔……。私もそんな子育て時代の日々を懐かしく思い出しました。

でも子どもたちが成長する過程で、確実に昔に比べて家庭でも、地域でも生活経験が少なく、限られるようになってきました。子どもは体験したことをごっこ遊びの中で再現するのですから、見たことがない、したことがない、手伝った経験がなかったら、イメージの共有ができなくて遊べないのは当たり前なのです。だからこそ、幼稚園ではたくさんの種を蒔きたいと思うのです。

そのひとつとして、保育室の一角には必ずままごとコーナーがあり小道具を揃えています。流し台、冷蔵庫、電子レンジ、食器棚、洋服ダンス、赤ちゃん、ベッド、料理の小道具、職業ごっこの小道具などです。どの学年でも不動の人気ナンバー1のコーナーです。

2～3歳までは大人がリーダーとなり、役割やストーリー、言葉やしぐさなど遊び方を教えます。3歳になると子ども同士で役割を決めたりして遊べるようになっていき、経験したこと、見たことなどを盛り込み、見事に表現し、その子の家庭の様子がよくわかります。

私たち教師の役割は、子どもたちの遊びに向かう意欲をどう高めていけるかだと考えています。

子どもが自由に遊ぶ中で、興味のあることに出会い、遊ぶ意欲がかきたてられ、人と関わり、工夫したり、やり遂げた満足感が得られるように、これからも環境を整えていきたいと思っています。

コロナが少し落ち着いてきましたが、気を緩めず手洗い、換気に気を付けて、子どもたちと秋を楽しんでまいります。

保護者の皆様のご協力とご理解に、心から感謝しつつ……。

ひかりの子幼稚園
園長 松本直子